

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	タクシー運転手	販売量の動き	・今月に入って、地元の祭りなどの入出が好調で、観光客も予想より多くみられた。タクシーの売上も、3か月前と比較して約20%増加しており、前年比でも約1%上回っている。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・来客数の推移をみると、5月は前年比67%、6月は前年比69%、7月は前年比約83%、8月は25日時点で前年比約99%となっており、回復傾向にある。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・東日本大震災後、募集を中止していた各ツアーエージェントが募集を再開したことから、旅客数が増加している。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客の分譲マンションに対する購買意欲が高い。初めてモデルルームに来場してから、契約に至るまでの日数が短くなっている。また、モデルルームへの来訪者数に対する契約者数の割合も高くなってきている。これらの状況から、総じて客の商品への反応が良くなっている。
やや良く なっている	やや良く なっている	商店街（代表者）	単価の動き	・冷え込んでいた時計や宝飾品等の高額商品の動きがやや良くなってきた。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の慎重な購買姿勢は大きく変わってはいないが、季節商材を中心に少しずつ従来の水準に近づいてきている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・3か月前と比べると客の増加がみられる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・U-15サッカーの来場者が1万人を超える規模となり、限定的ではあるが、交通機関、宿泊施設、土産等業種にかなりの波及効果をもたらした。特にレンタカー業界は前年と比較して予約件数がおよそ3割増加しており、車の回転が間に合わない店舗もあった。また、他の業種においても、商店街の祭りや歩行者天国等による集客があり、飲食店を中心に売上が増加した。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・東京方面で放射能の影響が心配されている一方で、北海道は安心して心を癒やしたいとの理由から、特に福島県からの客が大きく増えた。また、関東方面からの観光客は夏休みを長く取ったようであり、特に盆以降の客が大幅に増えている。最近2週間の売上も前年比で35%の伸びがみられた。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・27日現在、全店での売上は前年比98.7%であり、6月以降、上向き傾向にある。この3か月間の買上客数は前年比95～96%にとどまるものの、客単価が前年比102～103%で推移している。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・東日本大震災の影響もかなり改善されてきており、道外観光客に加えて、海外からの来道者数も東日本大震災以前の水準まで回復しつつある。今年3月に開通した駅前通の地下歩行空間の歩行者数も当初予想を上回っており、来客数の増加に寄与している。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・東日本大震災の復興復旧支援もある程度の目途が付いたとみられるなか、夏祭り等のイベントの影響もあり、修学旅行等の団体客が訪れている。消費者の意識もこれまでの自粛節約傾向から消費拡大傾向になりつつある。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・地元の行事や、盆の帰省客による来店が例年と比較して多く、前年よりも若干ながら売上が増加した。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・東日本大震災以降、宿泊客数が激減していたが、国内旅行者とビジネス客を中心に低単価ながらも宿泊客数が回復基調にある。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・旅行需要での春の中止分がこの秋に戻ってきている。数字もやや前年を上回る見込みである。

	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・7月末から8月にかけて、北海道発着の航空機搭乗率は大幅に上昇している。観光需要における東日本大震災の影響からの回復は九州、沖縄などの西日本からであったが、夏場になり、北海道も急速な回復傾向がみられている。ただし、旅行形態は個人型にシフトしてきている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・東日本大震災以降、海外からの観光客がしばらくみられなかったが、8月になって少しずつ戻ってきている。タクシー1台当たりの売上も前年並みとなった。
	通信会社（社員）	お客様の様子	・外国人観光客が戻ってきているため、少しずつ以前の活気があった状態に戻りつつあるという話を自営業者などから聞く。また、そのような話をする人の表情も明るく力にみざっている。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・東日本大震災の影響も落ち着き、国内客、道内客の来場者が戻りつつある。ただし、東南アジアを始めとした海外客の来場者は低迷している。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・売上が前年と同じくらいまで回復をしてきている。客の生活が通常のパターンに戻ってきている。
変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・8月は気温の高い日が続くなか、中盤に着物が少し動いたが、後半に気温がまた上昇したことで、客の購買意欲が低下しており、夏物の安い商品を買う傾向が強くなっている。
	商店街（代表者）	単価の動き	・客の様子をみても、前月又は前々月から変化がみられない。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・8月下旬になり、顧客の関心がかなり秋物に向けてきている。特に主要顧客に関してはかなり高額な購買も目立つようになってきている。
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・例年と違って猛暑の日が少なく、盆明け以降は、一部残暑があったものの、秋の兆しもみられるようになってきていることから、秋物の動きを期待していたが、まだ動きがみられない。中元商戦に関しては、最終的には状況が厳しく、前年を下回った。
	百貨店（役員）	お客様の様子	・6～7月と若干景気の上向きが感じられたが、8月は全体的に厳しい。特に地上デジタル放送への完全移行による家電特需の終息が全体の流れを止めた感がある。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・衣食住とも前年比105%前後の伸びが続いており、3か月前とほぼ同じ状態にある。これから秋に向かって天候が変われば若干変わってくるだろうが、現状は3か月前と比べて大きな変化がみられない。
	スーパー（役員）	お客様の様子	・夏場の天候が例年並みだったため、客の動向も例年通りで推移している。
	乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・毎週土日のイベントの来場数に大きな変化がみられない。客が様子見をしているように感じられる。
	自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・業界全体としては下向きかもしれないが、スタッフ一丸での取組の効果からか、引き続き堅調に売上実績を伸ばすことができてきている。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・夏休み後半も引き続き観光客の入込がみられ、8月の売上は前年並みとなった。当初は入込の減少を心配していたが、まずまずの状況であった。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・例年8月は売上の上がらない時期であるが、全体的には前年並みの水準であった。単価を下げたメニューは満足度が高いようで人気があったが、通常価格のメニューはやはり引き合いが少なく、厳しさを感じた。中国直行便が再開したことで、市内には観光客が増えてきたが、高級店にはまだまだ足が向かないようだ。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・夏の繁忙時期であるが、今年は来客数が前年比で10%程度減少している。客単価も低下している。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・道内客は堅調に推移しているが、本州方面からの客と海外からの客が依然として回復しておらず、前年を下回る状況が続いている。さらに、低単価の道内客が多く、収益面では一層厳しい状況にある。
パチンコ店（役員）	お客様の様子	・当社の状況のほか、異業種の客の動向及び消費金額をみても、前月と大きく変わっている様子はみられない。	
住宅販売会社（従業員）	競争相手の様子	・建築確認申請の件数があまり増えていないため、状況は変わらない。	

やや悪く なっている	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数が前年を下回る傾向に歯止めがかからない。劇的に悪化している訳ではないが、徐々に減少幅が拡大している。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・食品を中心に売上の苦戦が続いている。競合店との価格競争が激化しており、来客数の前年割れが続いている。	
	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・8月は前年より日曜日が1日少ないこともあり、全体的に不振である。	
	スーパー（役員）	来客数の動き	・客単価が前年比101%、商品単価が前年比99.7%、客1人当たりの平均買上点数が前年比101.1%となっており、この数か月間で大きな変化はみられないが、来客数が前年比で1.5%程度減少している。少子高齢化や人口が緩やかに減少しているなかで、ディスカウント店の増加等により、店舗数が増加しており、顧客の分散傾向がみられ、1店舗当たりの来客数が減少している。	
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・たばこの値上げ分による売上の上乘せで、客単価は引き続き上昇傾向にあるが、販売量は前年を下回っている。	
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・盆以降、急速に販売量が低下している。今まではたばこの欠品の影響で一時的に買いだめ需要も発生していたが、それも収束している。遠方の行楽地周辺の店舗の売上は低調で、東日本大震災以降の影響を引きずったままである。	
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・展示会をよく開催するが、今年は来客数も少なく、客の購買量も少なくなっており、非常に苦労している。	
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・テレビ売場の客足が一気に落ちている。7月24日までの駆け込み需要の反動が出たとみられる。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・健康に関する物であっても、不要な物は購買を控える状況ができつつあり、健康管理品の購買までもが減少している。	
	スナック（経営者）	来客数の動き	・すすきのへの人出は若者が多く、年配者が全くみられない状況にある。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・電話の注文が前年並みであり、1件当たりの単価も低下してきている。全体の注文件数も前年を下回っている。	
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・スマートフォンの販売は好調であるものの、競合他社と比べて販売の伸びが低調である。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・円高、株安等の影響で客の消費マインドが冷え込んでおり、住宅の投資、消費に悪い影響を及ぼしている。	
悪く なっている	スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量で見ると、今月は前年比89%となっており、3か月前の前年比96%と比較して、非常に状況が悪くなっている。	
	家電量販店（店長）	単価の動き	・来客数が減っているなか、客単価も低下しているため、大変厳しい状況にある。	
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・予想されていたことであるが、アナログ放送の停波以降、テレビを中心に家電全般の需要が冷え切っている。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・8月の取扱額は国内旅行が前年比97.3%、海外企画旅行が前年比78.8%となっている。国内旅行、海外旅行とも前年を下回っており、状況は悪くなっている。	
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	
	やや良く なっている	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・新規案件が数件動き始めたことで、受注量が増え始めている。
		金融業（企画担当）	それ以外	・原材料価格の上昇が続いているため、企業の収益面は厳しい状況にある。一方、外国人観光客は低水準であるが増加している。避暑目的のためか、盆期間中の来道者数も前年に比べて増加している。住宅着工戸数も低金利が追い風となって増加しており、総じて景気は最悪期を脱している。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・消耗資材の販売量がやや回復傾向にある。

変わらない	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・東日本大震災後に特需がみられた水産加工品の受注も以前の水準に戻ってきている。農水産物の豊作豊漁も一部みられるものの、加工原材料が高値で推移していることから、生産コストが増加している。一方、農水畜産物の食料品の放射能汚染に対する消費者の関心が強いことから、原材料における放射能の検査証明書の添付が強まっている。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・円高、ドル安による経済環境の変化により、生活必需品以外の買い控えがみられるようになっている。
	建設業（従業員）	取引先の様子	・鉄骨加工業界では老舗企業が破産宣告に陥ったが、業界では秋口からの仕事が全くみられない。あっても本州の仕事であり、採算割れの価格で受注しているほどである。
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・8月に入り本州の気候が不順なことから、飲料品の出荷が落ち着いてきている。一方、生乳は依然として不足しており、北海道からの送り込みは前年を上回って推移している。
	司法書士	取引先の様子	・東日本大震災による流通機能の停滞から脱し、回復傾向にあることから、状況は着実に良くなっている。しかしながら、景気の回復という面については、何とも言えない状況にある。
	司法書士	取引先の様子	・震災復興の遅れ、円高などの影響により、経済状況は冷えたままの状態である。新規の不動産投資や住宅着工は減少又は横ばいの状況であり、有効な対策が出ない状態が続いている。
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・案件数を前年と見比べても大きな変化を感じられない。
やや悪くなっている	金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・先月ぐらいから受注量が少しずつ減少してきている。
	司法書士	取引先の様子	・土地の売買、建物の新築が相変わらず少ない。
悪くなっている			
雇用関連	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ほとんどの業種で求人数が前年を上回っている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・レストランやカフェの新規開業に伴う飲食系の求人が増えている。ただ、正社員の求人は横ばい状態である。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数の動きをみても、ほぼ東日本大震災前の状況に戻ってきている。暑さの影響からか、食品小売や食品製造、それに伴う運送関連などの業種の求人も増えている。また、道外からの観光客や避暑型滞在の増加、アジア人観光客の回復に伴い、宿泊関連も徐々に復調してきている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・8月の売上は前年比110.7%と、過去3年間で最高を記録した。農業関連の運輸運送が前年比138%、同じく農業関連の派遣が前年比111%で、この2業種で売上の3分の1強を占めた。ただし、医療、流通、飲食、環境衛生はいずれも前年を割り込み、特に飲食は前年比49%と大きく落ち込んだ。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から5.5%増加し、18か月連続で前年を上回った。また月間有効求人数も前年から10.3%増加し、18か月連続で前年を上回った。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が少し上向いた感があるが、求職者数も増えているため、結果的に求人数と求職者数の比率に大きな変化はみられない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・産業別の求人数にほとんど変化がみられない。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・7月の新規求人数は前年を1.5%下回った。新規求職者は前年を6.1%下回った。月間有効求人倍率は0.50倍となり、前年の0.45倍を0.05ポイント上回ったが、新規求人数のうち正社員求人数の占める割合は44.1%と低く、求人者と求職者の間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
	職業安定所（職員）	それ以外	・管内の求人倍率は0.43倍となり、前年を0.07ポイント上回ったが、相変わらず低水準で推移している。

	学校 [大学] (就職担当)	周辺企業の様子	・ 2012年卒業生の採用活動について、東日本大震災の影響で大手企業を中心に選考スケジュールの後ろ倒しがあった時期も過ぎ、合同企業説明会や個別説明会の動きからは状況が落ち着いている感がある。こうした様子は前年とほぼ同じであるが、7月末日に開催した学内説明会における参加企業は減少した。また、説明会後の採用結果からは、企業側の採用人数、採用意欲が更に慎重になったことがうかがえる。
やや悪くなっている	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・ 今春卒業や既卒の未就職の人からの相談が増えてきているが、それら若年者を採用できる求人は少なく、また、本人の就職する意欲も低い。さらに、パート求人が減少傾向にあるなかで、求職者の希望職種は事務職が多くみられるが、ここ数年、企業内の事務部門の求人は減少しており、雇用のミスマッチの状況が続いている。全体的に雇用環境は改善していない状況にある。
悪くなっている	-	-	-